

建設業向けセミナー多数

建通新聞電子版



建通新聞

徳島

きょうの紙面

建設業許可と連携
事務手続き簡略化へ/建退共 6面

徳島中央高西校舎を全面改修
24年度にも公告/県 2面

特養「丸山長寿園」移転
スケジュール見直し/むろと会 3面

今治別宮町店を新設 愛媛県に
大店立地法届け出/ドラッグストアモリ

地域建設業の課題把握
効率的な災害対応へ/国交省 4面

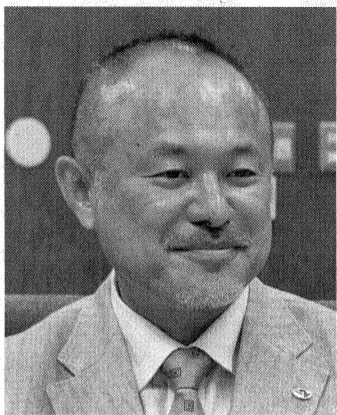
CCUSの「格安、サービス
申し込み受付開始/振興基金など

2023年(令和5年)

10月20日 金曜日

発行所: 建通新聞社 四国支社 〒760-0061 高松市築地町13-5 電話<087>835-1900 徳島支局 電話<088>623-5666 新聞定価6ヵ月 34,200円(税込) ©建通新聞社 2023

建通新聞「電子版」は
こちらからアクセス!



西日本高速道路会社四国支社
建設・改築事業部長に就任した

大城 壮司氏

「安定するには『進化』が必要。常にいろいろなことにチャレンジする」ことを念頭に仕事に臨む。若手技術者に対しても

「失敗を恐れずに」と話し、「たとえ失敗しても先輩技術者がフォローできるような組織を作っていく」と意欲的だ。

若手に対しては「まずは原因や現象を深掘りできる洞察力を

安定には常に「進化」を

持つこと。次に解決策まで考え、そこに向け新しい技術につなげ

「建設・改築事業部では、4車線化やスマートインターチェン

ジ、耐震補強などの事業を主に進めている。特に「南海トラフ地震に備え、耐震補強を重点的に進めていきたい」と話し、急峻(きゅうしゅん)な地形に立つ構造物にも高い技術力を生かし、臨機応変に施工を進める。

その原点は旧日本道路公団に入社して2年目で体験した阪神淡路大震災からの復旧工事だ。

「どのように壊れたのかを記録に残っており、構造物の補強や

設計で役に立っている」と話し、また当時は、要領には載っていない事態が発生する中「何を最優先にしなければならぬかを瞬時に判断すること」を先輩の動きを見て学んだ」と振り返り、来る南海トラフ地震に向け、若手技術者にも経験を還元す

初めての四国勤務。「サーフインでも始めたいな」と仕事を離れてもチャレンジ精神旺盛だ。(報道部 岡林正士)

徳島県は旧海部病院を、新型コロナウイルスを、感染者の宿泊療養施設から、海部高校の寮に改修(転換)して活用する方向で検討している。

現建物の規模は鉄筋コンクリート造4階建て延べ5359平方メートル。1983年完成。現在、3、4階の延べ約2000平方メートルをユニットタイプの個室にし、宿泊療養施設60室として使用中。所在地は牟岐町中村字本村75ノ1。

18日に第2回活用検討協議会が開かれた。地域のさまざまな立場の意見から、有効な活用方を検討している。



＝県＝ 徳島小松島港と橘港

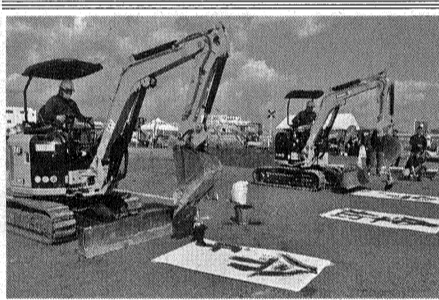
脱炭素化推進へ

2030年度で50%削減

対象エリアは2港の全域。徳島小松島港は沖洲(外)地区、津田地区、本港地区、金磯地区、赤石地区など。橘港は大湊地区や臨海部の工場立地地域など。徳島小松島港は脱炭素化とCNP形成計画策定を委託済みで、橘港は8月から脱炭素化推進計画の検討を始めている。いずれも四国建設コンサルタント(徳島市)が担当している。

橘港では本年度、アンケート調査、企業へのヒアリング調査を行い、重油など燃料消費値などのエネルギー量から、温室効果ガス(CO₂)排出量を推計する。削減目標は港湾ターミナルの内・外や、出入りする船舶や車両(と)に定める予定でお

徳島県は、カーボンニュートラルポート(CNP)形成を目指す重要港湾の徳島小松島港(徳島市小松島市)と橘港(阿南市)で、脱炭素化の施策を推進する。立地企業や利用する企業、荷役機械利用者、火力発電・化学工業・倉庫などの事業者と連携して、県が掲げる「2030年度で13年度温室効果ガス排出量からの50%削減」に向けて取り組む。



建機を使った書道
真剣に建機を操作する競技者に、同僚社員や観覧者からも「頑張れー」の声援とともに笑みがこぼれ、大きな拍手が贈られた。

「建1」グランプリ」を2年ぶりに開催した。延べ30人が競技者として参加した(⑩面に関連記事)。

大型・小型建機を駆使し、繊細な技量が求められる「書道」、速さと正確さが必要な「風船の早割りから適量の土砂積み込み」を競う2競技が行われた。

徳島県産業資源循環協会青年部(登幸治郎部会長)は15日、重機オペレーターの技術を競う「建1」グランプリ」を2年ぶりに開催した。延べ30人が競技者として参加した(⑩面に関連記事)。

り、先行して委託した徳島小松島港に続き、橘港でも今後、脱炭素化推進

2港の具体的な事業内容

旧海部病院 海部高の寮に改修へ検討

容は、今後策定する脱炭素化推進計画に盛り込む。港湾管理者の施設整備や、民間による港湾施設の高度化事業を進める予定。CNP形成には水素や燃料アンモニアの貯蔵・受け入れ施設の整備が必要とされる。荷役機械や船舶・大型車の脱炭素化は、ディーゼルから水素燃料電池への転換や電源供給によるCO₂削減が有効とみている。

県の気候変動対策推進計画では50年度に、CO₂の13年度排出量と削減量からの実質ゼロが目標。

暑さと戦う、
すべての建設現場へ。

Comodo gear

ウェアラブルエアコン

コモドギアは装着した瞬間から首回りを冷却します。

【お客様の声(鉄鋼メーカー 現場管理部門責任者様)】

コモドギアは猛暑の現場でもよく冷え、使用すると頭がスッキリする感覚があります。作業効率の向上や、不注意による事故の防止にもつながるのではないのでしょうか。長年の悩みであった暑さ対策が解決できそうだと感じています。



まずはお試し [富士通ゼネラル コモドギア](#) [検索](#)

かんぽ生命

日本郵政グループ

企業経営者様向け | Zoom Webinar オンラインセミナー **先着 1,000名**

2023

11/21 [火]

参加費 **無料**

第1部 16:30~17:30

第2部 17:30~18:00

第1部
事業承継を円滑化する株式の活用方法

TMI総合法律事務所
講師 **葉玉 匡美**
弁護士

第2部
外国人雇用のポイント

TMI総合法律事務所
講師 **大寄 将史**
弁護士

こちらから予約サイトにアクセスいただけます

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_-qFtYRo1Tt2eFh-c6yLPGQ

主催: 株式会社かんぽ生命保険